

4.1 集合の濃度

4 集合と論理

4.1 集合の濃度

4.2 ブール代数

4.3 論理関数

集合 A の濃度 :

$$|A| = \begin{cases} \text{要素の数} \dots & \text{if } A \text{ は有限集合} \\ \text{加算無限} \dots & \text{if } A \text{ は自然数と対応がつく} \end{cases}$$

- 以下の集合は加算無限か？

自然数: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, ...
 偶数 : 0, 2, 4, 6, 8, 10, 12, ...
 奇数 : 1, 3, 5, 7, 9, 11, 13, ...
 素数 : 2, 3, 5, 7, 11, 13, 17, ...
 整数 :
 実数 :
 有理数:

1

2

濃度の比較

- $A =_C B$: 全単射 (1対1かつ上への写像) $f: A \rightarrow B$ が存在
- $A \leq_C B$: 単射 (1対1写像) $f: A \rightarrow B$ が存在
- $A <_C B$: $A \leq_C B$ かつ $A \neq_C B$
- 有限集合 $<_C$ 加算無限集合

問4.2 濃度の等しさ $=_C$ が同値関係であることを示せ

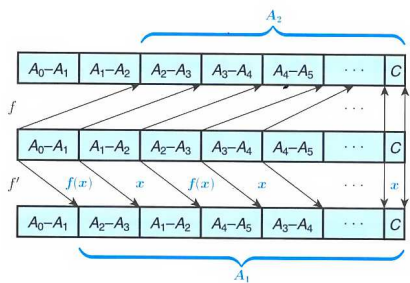
3

補題4.1: $A_0 \supseteq A_1 \supseteq A_2$ かつ $A_0 =_C A_2$ ならば、

$$A_0 =_C A_1$$

証明: $A_0 =_C A_2$ より全単射 $f: A_0 \rightarrow A_2$ が存在

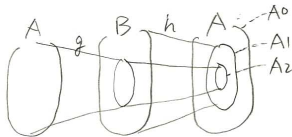
- f から以下のように全単射 $f': A_0 \rightarrow A_1$ が定義できる



4

定理4.1: $A =_C B \iff A \leq_C B \wedge B \leq_C A$

証明: 単射 $g: A \rightarrow B, h: B \rightarrow A$ が存在し



- $g \circ h: A \rightarrow A_2$ は全単射なので $A =_C A_2$
- 補題4.1より $A =_C A_1$
- ここで、 $h: B \rightarrow A_1$ も全単射なので $B =_C A_1$
- よって問4.2より、 $A =_C B$

5

問4.4: \leq_C が反射律と推移律を満たすことを示せ

定理4.2: 任意の $A \subseteq \mathbb{N}$ に対して、

$$|A| \notin \mathbb{N} \iff A =_C \mathbb{N}$$

証明: (\Leftarrow) 明らか (全単射 $f: \mathbb{N} \rightarrow A$ を考えよ)

(\Rightarrow) $A \notin \mathbb{N}$ とする。 $A \subseteq \mathbb{N}$ より、 A の要素は小さい順に並べることができるため $A =_C \mathbb{N}$

問4.5: 任意の $A \subseteq \mathbb{N}$ に対して、

$$|A| \notin \mathbb{N} \iff \exists B (B \subset A) B =_C A$$

略解 (\Rightarrow) 定理4.2より $A =_C \mathbb{N}$ 、全単射 $f: A \rightarrow \mathbb{N}$ 有。

$A - f(0)$ で B を定めると、 $g(x) = f(x+1)$ は全単射

(\Leftarrow) $|A| \in \mathbb{N}$ とすると、 $B \subset A$ について $|B| < |A|$

6

加算無限より大きい濃度の集合

(注) $2^A = \{X \mid X \subseteq A\}$ (教科書p.18の定義)

定理4.3: 任意の集合Aに対して、 $A <_C 2^A$

証明:

($A \leq_C 2^A$) $f(x) = \{x\}$ で定まる $f: A \rightarrow 2^A$ は単射

($A \neq_C 2^A$) $f: A \rightarrow 2^A$ が全(単)射と仮定する

- $B = \{a \in A \mid a \notin f(a)\} \subseteq A$ とおく
すなわち、どんな $a \in A$ にも、 $a \in B \iff a \notin f(a)$
- $f(a) = B$ を満たす $a \in A$ は存在しない。なぜなら、 $a \in f(a)$ なら $a \notin B$ 。また、 $a \notin f(a)$ なら $a \in B$
- よって、 f が全射であることに矛盾

7

問4.6: $A =_C B$ ならば $2^A =_C 2^B$ であることを示せ

略解 全単射 $f: A \rightarrow B$ から以下のように定まる $g:$

$2^A \rightarrow 2^B$ が全単射であることを示せばよい

$$g(X) = \{f(a) \mid a \in X\}$$

8

例 $\mathbb{N} =_C \mathbb{Z} =_C \mathbb{Q} <_C \mathbb{R} =_C 2^{\mathbb{N}}$

教科書p.114からp.117を参照

定理4.5,系4.5.2: $\mathbb{N} \times \mathbb{N} =_C \mathbb{N}$, $\mathbb{Q} = \mathbb{N}$

定理4.6: $\mathbb{N}^* = \bigcup_{n=0}^{\infty} \mathbb{N}^n$ と書くとき、 $\mathbb{N}^* =_C \mathbb{N}$

証明: \mathbb{N}^* を G_0, G_1, \dots にグループ分けできる

$$G_m = \{(a_1, \dots, a_n) \in \mathbb{N}^* \mid m = a_1 + \dots + a_n\}$$

各 G_m は有限集合なので、 \mathbb{N}^* の要素を G_0, G_1, \dots の順に並べられる

9

定理4.7: $\mathbb{R} =_C 2^{\mathbb{N}}$

証明: 系4.5.2, 問4.6より $2^{\mathbb{N}} =_C 2^{\mathbb{Q}}$

($\mathbb{R} \leq_C 2^{\mathbb{Q}}$): $H: \mathbb{R} \rightarrow 2^{\mathbb{Q}}$ を以下のように定める

$$H(\alpha) = \{x \in \mathbb{Q} \mid x \leq \alpha\}$$

二つの実数の間には必ず有理数が存在するので、 H は単射

($2^{\mathbb{N}} \leq_C \mathbb{R}$): $h: 2^{\mathbb{N}} \rightarrow \mathbb{R}$ を以下のように定める

$$h(A) = \sum_{n \in A} 3^{-n}$$

問4.9より h は単射

10

問4.9: $h(A) = \sum_{n \in A} 3^{-n}$ で定まる $h: 2^{\mathbb{N}} \rightarrow \mathbb{R}$ が単射であることを示せ

略解: $A \neq A'$ とする。一方にだけ含まれる要素の最小を

k とし、 $k \in A, k \notin A'$ とする

$$\begin{aligned} h(A) - h(A') &> 1/3^k - (1/3^{k+1} + 1/3^{k+2} + \dots) \\ &> 1/3^k - 1/(2 \cdot 3^k) \\ &> 0 \end{aligned}$$

よって、 $h(A) \neq h(A')$

11

4.2 ブール代数

代数: 集合とその上のいくつかの演算

ブール代数: 以下の公理を満たす代数 $\langle A, \{0, 1, \vee, \wedge, \neg\} \rangle$

冪等則 $x \wedge x = x \vee x = x$

交換則 $x \wedge y = y \wedge x, x \vee y = y \vee x$

結合則 $(x \wedge y) \wedge z = x \wedge (y \wedge z),$
 $(x \vee y) \vee z = x \vee (y \vee z)$

吸収則 $(x \wedge y) \vee x = x, (x \vee y) \wedge x = x$

分配則 $(x \vee y) \wedge z = (x \wedge z) \vee (y \wedge z),$
 $(x \wedge y) \vee z = (x \vee z) \wedge (y \vee z)$

補元 $x \vee \neg x = 1, x \wedge \neg x = 0$

12

4.3 論理関数

論理関数：ブール領域 $\mathbb{B} = \{0, 1\}$ 上の関数

次の定理から、どの $f : \mathbb{B}^n \rightarrow \mathbb{B}$ も、関数 \wedge, \vee, \neg の合成で表せることが分かる

定理 4.9：シャノンの展開定理

任意の $f : \mathbb{B}^n \rightarrow \mathbb{B}$ に対して以下が成り立つ

$$\begin{aligned} f(x_1, \dots, x_{n-1}, x_n) &= (f(x_1, \dots, x_{n-1}, 0) \wedge \neg x_n) \\ &\quad \vee (f(x_1, \dots, x_{n-1}, 1) \wedge x_n) \end{aligned}$$

証明： $x_n = 0$ と $x_n = 1$ で場合分けすれば示せる

13

f が充足可能： $f(x_1, \dots, x_n) = 1$ を満たす $x_1, \dots, x_n \in \mathbb{B}$ が存在する

Teistin 変換：新しい変数を導入するが、充足可能性を保存したまま **CNF** に変換する変換。

各関数 $f \in \{\wedge, \vee, \neg, \dots\}$ に対して、

$$\begin{cases} T(x) = \langle x, 1 \rangle & x \text{ が変数、} \mathbf{0}, \mathbf{1} \text{ のいずれかのとき} \\ T(f(\phi_1, \dots, \phi_n)) = \langle z, \delta \wedge \psi_1 \wedge \dots \wedge \psi_n \rangle \end{cases}$$

ここで、 z は新しい変数、 $T(\phi_i) = \langle y_i, \psi_i \rangle$ 、

δ は $(z \Leftrightarrow f(y_1, \dots, y_n))$ と等価な **CNF**

補題： $T(\phi) = \langle z, \psi \rangle$ とするとき、 ψ は **CNF**

16

定理 4.10：和積標準系 (**DNF**)

$$f(x_1, \dots, x_n) = \bigvee_{f(a_1, \dots, a_n)=1} \bigwedge_{i=1}^n x_i^{a_i}$$

ここで、 $x_i^1 = x_i$, $x_i^0 = \neg x_i$

例：右の表で与えられる論理

関数 f の **DNF** は、
 $(\neg x \wedge y) \vee (x \wedge \neg y)$

x	y	$f(x, y)$
0	0	0
0	1	1
1	0	1
1	1	0

14

Teistin 変換の例： $(x_1 \wedge x_2) \vee (x_3 \wedge x_4)$ を **Teistin 変換** する

$$\begin{aligned} T(x_1 \wedge x_2) &= \langle z_1, (\neg z_1 \vee x_1) \wedge (\neg z_1 \vee x_2) \wedge (z_1 \vee \neg x_1 \vee \neg x_2) \rangle \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} T(x_3 \wedge x_4) &= \langle z_2, (\neg z_2 \vee x_3) \wedge (\neg z_2 \vee x_4) \wedge (z_2 \vee \neg x_3 \vee \neg x_4) \rangle \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} T(x_1 \wedge x_2) \vee (x_3 \wedge x_4) &= \langle z, (\neg z \vee z_1 \vee z_2) \wedge (z \vee z_1) \wedge (z \vee z_2) \wedge \dots \rangle \end{aligned}$$

ϕ と ψ は **充足可能性が等価**： $\phi = 1$ とする変数の割当てに対して、それに ψ だけに現れる変数を追加して定めることで $\psi = 1$ とできる。また逆も可能

17

定理 4.10'：積和標準系 (**CNF**)

$$f(x_1, \dots, x_n) = \bigwedge_{f(a_1, \dots, a_n)=0} \bigvee_{i=1}^n x_i^{\neg a_i}$$

ここで、 $x_i^1 = x_i$, $x_i^0 = \neg x_i$

例：右の表で与えられる論理

関数 f の **CNF** は、
 $(x \vee y) \wedge (\neg x \vee \neg y)$

x	y	$f(x, y)$
0	0	0
0	1	1
1	0	1
1	1	0

● **CNF サイズの爆発**

問 4.18： \vee と \neg で任意の論理関数を表せることを示せ

解： $x \wedge y = \neg(\neg x \vee \neg y)$ より明らか

15

定理： $T(\phi) = \langle z, \psi \rangle$ に対して、 ϕ と $z \wedge \psi$ は充足可能性が等価

略証： ϕ の構造に関する帰納法。

● $\phi = \phi_1 \wedge \phi_2$ のとき、

- $\phi = 1$ とすると、 $\phi_i = 1$ と帰納法の仮定 (**IH**) より $y_i = \psi_i = 1$ 。 $z = 1$ ととれば、 $\delta = (z \Leftrightarrow y_1 \wedge y_2) = 1$ 。 よって、 $z \wedge \phi = 1$

- $z \wedge \phi = 1$ とすると、 $\delta = 1$ より $y_1 = y_2 = 1$ 。 また、 $\psi_1 = \psi_2 = 1$ と **IH** より $\phi_1 = \phi_2 = 1$ 。 よって、 $\phi = 1$ 。

● その他の場合も同様

18